

- ◆企画名 2017年度 関西大学ピア・コミュニティ春合宿
日程 2018年3月15日(木)～3月16日(金)
場所 関西大学 飛鳥文化研究所
参加者数 31名(ピア・サポーター21名、研修生3名、学生支援室TA3名、教職員4名)
目的

- ①ピア・コミュニティの枠を超えて交流することで、ピア・サポーター同士の絆を深め、同じピア・サポート活動を行う仲間であることを感じてもらい今後のコミュニティ間の連携を促進する。
②様々なアイスブレイクの紹介を通じて、各コミュニティの今後の企画においてアイスブレイクの充実を図る。
③各ピア・コミュニティが抱える問題点を把握し、それについての意見交換を行い、未来に向けて今後の活動の方向性を考える機会とする。

内 容

- 1日目 ・開会挨拶、企画説明、自己紹介
・本部企画ワーク「アイスブレイク紹介」
・TA企画ワーク「よりよいミーティングにするために」
・懇親会
2日目 ・レクリエーション
・本部企画ワーク「ピアの未来を見据える」
・アンケート記入、閉会挨拶

効 果

- ・レクリエーションやアイスブレイク紹介を通じて、以前まで交流をしたことがなかった人とも交流する機会となり、親睦を深めることができた。
- ・各場面に応じたアイスブレイクの紹介によって、様々な種類のアイスブレイクの知識を得ることができた。
- ・各コミュニティが抱える問題点を共有することで、ピア・コミュニティの現状の把握と今後の活動の方向性を考えることができた。

改 善 点

- ・各企画の準備不足や一部の人に仕事が偏ったことで、参加者募集の開始が遅くなり、募集期間や合宿の費用を集める期間が十分に取れなかった。余裕を持って春合宿に向けてやらなければならないことを把握する。
- ・本部企画ワーク「ピアの未来を見据える」では、それぞれの作業の時間が押して、グループ内や全員で共有する時間が十分に取れなかった。事前にリハーサルをして、各作業に必要な時間を確認し、時間設定をする。
- ・懇親会では、コミュニティごとで固まってしまう交流できていない人が多かったので、同じコミュニティ内だけではなく、コミュニティの枠を超えて交流を深めることができるようにする

感 想

参加者募集の期間が短かった中でも、参加者が多数集まったことで企画ごとにとっても盛り上がり楽しめたので良かったと感じた。

レクリエーションやアイスブレイク紹介においては、今まで面識のなかった人とも体を動かしたりゲームをすることで楽しく交流を深めることができ、ピア・サポーター同士のつながりが強まったと思うので、合宿を行う意義があったと感じる。

今後はより合宿を充実させるためにも積極的に参加者募集を行ない、参加者を増やしていきたい。